

令和 5 年 12 月 12 日
文教委員会行政報告資料

武蔵野総合体育館大規模改修 保全整備基本計画（案）

令和5年 12 月

目次

I. 基本計画策定に至る背景と位置づけ

I-1 計画策定の背景・目的	……1
I-2 基本計画策定における、他計画との関係	……2
I-3 基本計画の位置づけ	……3

II. 武蔵野総合体育館の概要、現状と課題

II-1 武蔵野総合体育館の周辺環境	……4
II-2 建設経緯	……5
II-3 施設概要	……6
II-4 施設の現状	……8
II-5 課題	……11
II-6 主な保全整備履歴	……17

III. 大規模改修の基本的な考え方

III-1 計画対象範囲	……18
III-2 基本方針	……19

IV. 改修内容について

IV-1 『劣化保全整備』の改修内容	……20
IV-2 『改良保全整備』の改修内容	……23
IV-3 『機能維持・向上工事』の改修内容	……27
IV-4 各諸室の改修内容	……31

V. 今後のスケジュール

V-1 設計及び工事スケジュール	……36
V-2 全館休館期間	……36
V-3 概算工事費	……36

VI. 計画上の留意点について

VI-1 計画上の留意点	……37
--------------	------

I. 基本計画策定に至る背景と位置づけ

I-1 計画策定の背景・目的

武蔵野総合体育館は、全市的な市民施設として平成元（1989）年に竣工し、市民スポーツの拠点として長年多くの方々に利用されてきた。また、地域に根付いた健康維持・増進のための施設でもあり、公の施設として高齢者や障害のある方のスポーツ活動を支えるセーフティネットの役割も担っており、地域のスポーツ活動や交流の場として長年親しまれている。

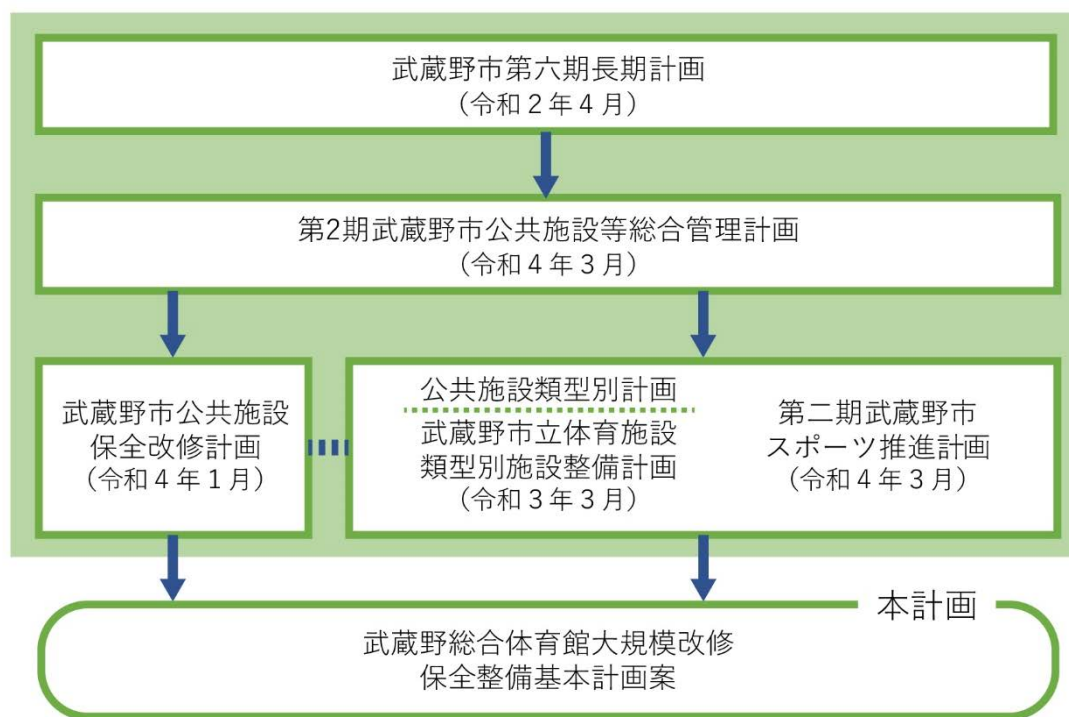
一方で、竣工後も着実に改修を重ね、適宜機能向上を図ってきたが、築 30 年以上が経過しており、経年による老朽化が進んだ給排水管、空調、昇降機、電気設備などを更新するため、長期休館を要する保全工事が必要な時期を迎えている。今後も、市民スポーツの拠点でもあり市立スポーツ施設の要でもある総合体育館について、多くの市民に利用され、多様なスポーツ文化を創出できるよう、大規模な改修工事を行うことは必要不可欠である。さらには、この間の障害者スポーツをはじめとしたスポーツ種目の多様化や、さらなる施設のバリアフリー化など、社会的要求の変化等に対応する必要があり、保全工事に合わせてこれらを含めた総合的な改修が求められている。

このようなことから、今後 30 年程度引き続き現在の施設を使用していくための劣化保全整備に加えて、改良保全整備や機能維持・向上工事を含めた大規模な保全改修を行うことにより、引き続き市民のスポーツ文化の発展に寄与していくことを目的として、本計画を定める。

I-2 基本計画策定における、他計画との関係

本計画は、市の最上位計画である武蔵野市第六期長期計画、第2期武蔵野市公共施設等総合管理計画、武蔵野市立体育施設類型別施設整備計画、武蔵野市公共施設保全改修計画に基づき、整備に向けた基本的な考え方を示すものとする。

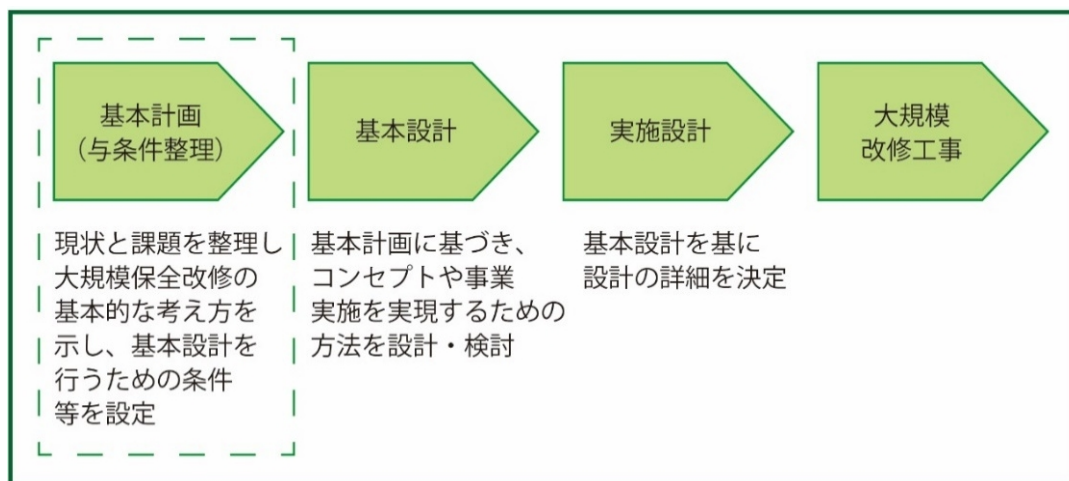
なお、第二期武蔵野市スポーツ推進計画では、「市民の誰もがスポーツを楽しみ豊かな生活を送り続けられる 武蔵野市」を基本理念に掲げ、性別、年齢、障害の有無などを問わず、市民の誰もがスポーツの魅力や価値を実感し、自由で気軽にスポーツを楽しみ、豊かな生活を送ることができるようなまちを目指している。さらに、重点施策の一つに「スポーツ施設の整備」を掲げ、市民スポーツの拠点でもあり市立スポーツ施設の要でもある総合体育館について、今後も多くの市民に利用され、多様なスポーツ文化を創出できるよう、大規模な改修工事を行うとしている。



計画の位置づけ、上位計画等との関連

I-3 基本計画の位置づけ

本計画においては、保全改修工事における基本方針を示すとともに、基本設計・実施設計における設計と条件を整理するものとする。



Ⅱ. 武蔵野総合体育館の概要、現状と課題

Ⅱ-1 武蔵野総合体育館の周辺環境

武蔵野総合体育館は、JR 三鷹駅からバスで 10 分程の場所に位置している。周辺には武蔵野市役所、武蔵野クリーンセンターがあり、駅から離れているにも関わらず人通りの多い環境に置かれている。

武蔵野総合体育館正面の中央通り（市道 17 号線）は、駅などの要所へのアクセスを担う生活に密接に関連した幹線道路としての役割を果たしている。また、桜の名所として親しまれており、武蔵野中央交差点から市営プール前交差点付近までトンネルのように桜並木が続く緑の軸となっていて、通行する人々の心に潤いと安らぎを与える空間となっている。



武蔵野市役所



体育館正面（中央通り側）

武蔵野総合体育館周辺には、陸上競技場や市営プール、ストリートスポーツ広場が隣接し、中央通りをはさんで軟式野球場や庭球場も整備されている。これらの体育施設の受付業務は、武蔵野総合体育館1階で行っており、市民スポーツの拠点としての役割を担っている。



武蔵野総合体育館の外観



武蔵野総合体育館周辺施設

Ⅱ-2 建設経緯

戦後、中島飛行機武蔵製作所の跡地を利用して、野球場やサッカー場、陸上競技場が整備された。その後平成元（1989）年 11 月、陸上競技場隣接地に武蔵野総合体育館が整備された。

完成までの主な経過は以下のとおり

昭和 60（1985）年 9 月

○市民スポーツ振興計画検討委員会中間報告にて総合体育館基本構想が示される

昭和 61（1986）年 3 月

○総合体育館の設計予算、3 月市議会定例会で可決

昭和 61（1986）年 6 月

○指名設計競技審査報告書が提出される（基本構想案を選定）

昭和 61（1986）年 8 月

○武蔵野総合体育館建設関係者会議が発足

昭和 61（1986）年 12 月

○建設計画地元説明会を開催（第 1 回、以降計 7 回）

昭和 62（1987）年 3 月

○工事予算、3 月市議会定例会で可決

昭和 62（1987）年 7 月

○建築基準法に基づく東京都の公聴会が開催される

○工事請負契約議案が 9 月市議会定例会で可決され、工事が始まる

平成元（1989）年 9 月

○財団法人武蔵野スポーツ振興事業団（現公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団）が設立許可される

平成元（1989）年 11 月

○武蔵野総合体育館オープン

Ⅱ-3 施設概要

①敷地概要

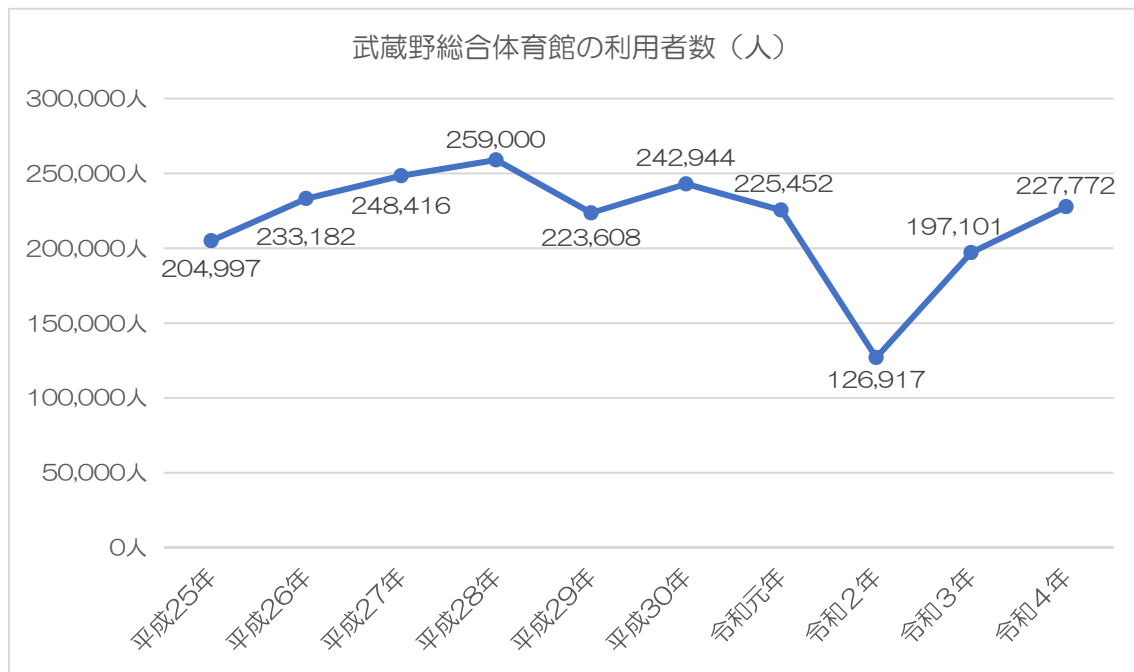
敷地面積	56,669.47 m ²
前面道路幅員	西側：市道 17 号線 15m、北側：市道 41 号線 9m
敷地位置	東京都武蔵野市吉祥寺北町5-11-20
区域	都市計画区域内 市街化区域
用途地域	第一種住居地域（指定建ぺい率 60%、指定容積率 200%）
防火地域	準防火地域
高度地区	第2種高度地区（23m）
日影規制	4-2.5h/4m

②建物概要

竣工年月	平成元（1989）年8月31日		
建築面積	14,824.01 m ²	※武蔵野陸上競技場・スタンド席を含む。	
延床面積	22,966.76 m ²	※武蔵野陸上競技場・スタンド席を含む。	
構造	SRC、RC、S 造		
用途	体育館		
階数	地上5階 地下1階 塔屋1階		
設備概要	電気設備	設備：高圧受変電設備 受電：クリーンセンターから電力受電	
	空気調和設備	熱源機器：吸収式冷凍機、冷却塔、熱源ボイラ、 プール用蒸気ボイラ 空調機器：空調機エアハンドリングユニット、空冷式 ヒートポンプパッケージ、ガスヒートポンプ パッケージ、ファンコイルユニット 風道設備：全熱交換器 自動制御：自動制御機器、中央監視装置 熱源供給：クリーンセンターから蒸気受給	
	給排水 衛生設備	給水：受水槽、高架水槽方式 排水：下水道放流	
	その他	放送設備、監視設備、火災報知器設備、スプリンクラー設備、 屋内消火栓設備、屋外消火栓設備、非常用電源設備	

③利用者数

市民スポーツの拠点として子どもから学生、高齢者、障害のある方まで幅広い世代の市民に親しまれており、利用者数はコロナ禍を除き大きな変動はない。継続的に多くの市民が利用している状況である。



Ⅱ-4 施設の現状

体育館には下記の機能が整備されている。利用時間は午前9時から午後9時30分まで。開館当時想定していた種目以外でも多様な目的で施設が利用されている。

メインアリーナ (1F)	<p>○規模：競技フロアー1,730㎡、45m×37m（2分割、3分割の使用が可）ランニング走路 180m/周、選手控席 395 席、天井高 13.7m</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途： バレーボール3面、バスケットボール2面、 バドミントン 10 面、卓球、フットサル</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： 車いすバスケットボール、車いすバドミントン、ボッチャ、 バウンドテニス、ドッチビー、シットイングバレーボール、 インディアカ、スカットボール、ミニテニス、剣道、 相撲、太極拳、新体操、エアロビクス、ソーシャルダンス、運動会、 選挙開票場、パブリックビューイング</p> <p>○設備：冷暖房設備、放送設備、得点表示装置、簡易ステージ</p>
サブアリーナ (2F)	<p>○規模：競技フロアー847㎡、23×33m（2分割使用可）、天井高9m</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途： バレーボール2面、バスケットボール1面、 バドミントン4面、卓球、フットサル</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： 車いすバスケットボール、車いすバドミントン、ボッチャ、 バウンドテニス、シットイングバレーボール、インディアカ、 スカットボール、ミニテニス、ドッチビー、剣道、太極拳、 新体操、エアロビクス、ソーシャルダンス、運動会</p> <p>○設備：冷暖房設備、放送設備、簡易ステージ</p>
軽体操ダンス室 (1F)	<p>○規模：競技フロアー369㎡、15×23m（3分割の使用が可）</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：各種ダンス、 体操・マット運動</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： ソーシャルダンス、フォークダンス、フラメンコ、エアロビクス、 バレエ、新体操、選挙事務、選手・ボランティア・審判等控室</p> <p>○設備：冷暖房設備、放送設備、鏡張り壁面、移動式鏡(5台)</p>
卓球室（1F）	<p>○規模：競技フロアー320㎡</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：卓球</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：選手控室（国体時）</p> <p>○設備：卓球台8台、ラケット、ボールの貸出あり</p>

トレーニング室 /体力測定室 (1F)	<p>○規模：トレーニング室 420 m²、体力測定室 94 m²</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途： トレーニング機器によるトレーニング、体力測定</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： エアロビクスなどのオリジナルプログラム</p> <p>○設備：有酸素系マシン各種（ランニングマシン、エアロバイクなど）、筋力トレーニングマシン各種、マッサージチェア、その他器具（ストレッチマット、バランスボール、ストレッチポールなど）</p>
幼児室（1F）	<p>○規模：128 m²</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：幼児室</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：読み聞かせ</p> <p>○設備：すべり台、ブロック、小トランポリン</p>
コミュニティラ ウンジ (2F)	<p>○規模：127 m²</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：食堂</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：自動販売機による軽食販売、飲食が可能な休憩スペース、親子スペース</p> <p>○設備：テーブル、椅子</p>
大会議室（3F）	<p>○規模：133 m²、90 席分（2分割使用可）</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：会議、研修会、講習会</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： 選手・ゲスト・審判控室、軽運動</p> <p>○設備：プロジェクター、スクリーンの貸出しあり</p>
視聴覚室（3F）	<p>○規模：101 m²、63 席</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：会議、研修会、講習会</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： 選手・ゲスト・審判控室、プレスルーム</p> <p>○設備：プロジェクター、スクリーンの貸出しあり、放送設備</p>
和室研修室 (3F)	<p>○規模：101 m²、33 畳、（2分割使用可）</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：会議、研修会、講習会</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途： 託児・選手・ゲスト・審判控室</p> <p>○設備：なし</p>
洋室研修室 (3F)	<p>○規模：37 m²、18 席</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：会議、研修会、講習会</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：選手・ゲスト・審判控室</p> <p>○設備：なし</p>

柔道場（4F）	<p>○規模：228 m²（128 畳） 15×15m</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途： 柔道、剣道、空手、太極拳、気功、合気道、ヨガなど</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：なし</p> <p>○設備：柔道畳 128 畳、放送設備</p>
剣道場（4F）	<p>○規模：228 m²、15×15m</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途： 剣道、柔道、空手、太極拳、気功、ヨガなど</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：ボッチャ</p> <p>○設備：放送設備</p>
弓道場（4F）	<p>○規模：的場 102 m²（5人立）</p> <p>○開館当時に想定していた種目、用途：弓道、アーチェリー</p> <p>○上記以外で使用している種目、用途：なし</p> <p>○設備：車椅子スロープ設置あり</p>

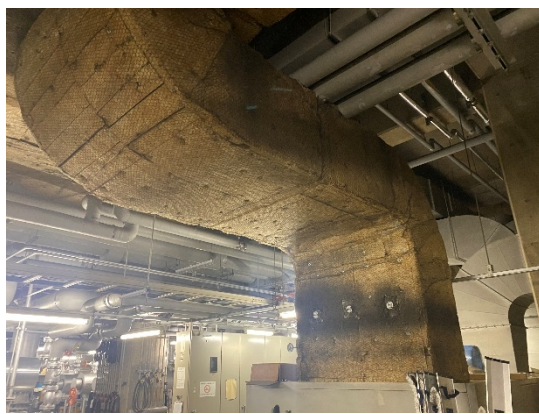
Ⅱ-5 課題

オープンから 30 年以上が経過し施設の老朽化が進行しており、利用者の安全性、利便性についても様々な課題点を抱えている。ヒアリングや現地調査、武蔵野市立体育施設類型別施設整備計画（令和 4（2022）年 3 月）で挙げられた主な課題点を下記にまとめる。

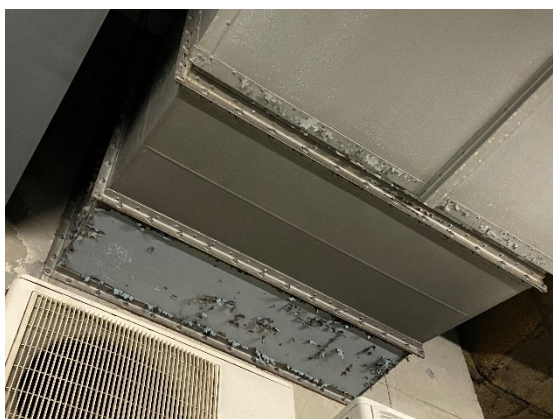
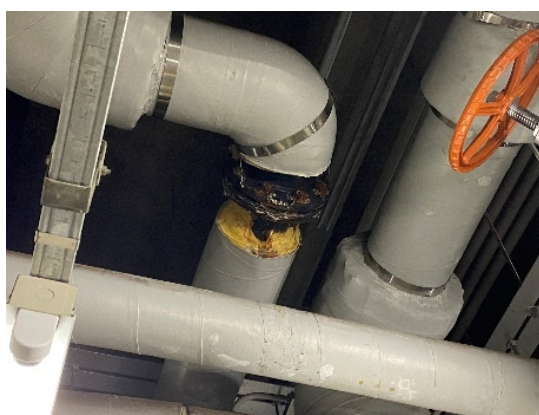
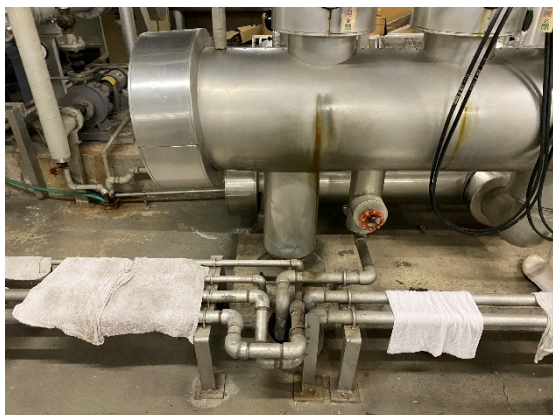
- 地下室等にある耐用年数を越えた設備機器の更新工事も十分には行えておらず、故障のリスクが高まっている。
- 競技用のフローリングが建設当初から更新されておらず、床の割れ及び床下地の劣化が発生している。
- エレベーターは竣工当時のままであり、耐震性能が現行基準に比べ劣っている。また、ストレッチャーが利用できない大きさであるため、緊急搬送の際にエレベーターが使用できない。
- 更衣室の洗面スペースは、手洗い器のみのため、ドライヤーの使用や化粧などがし難い。
- 玄関ホールが暗い。また、受付が奥まっているため正面出入口から受付を判別し難い。
- 館内案内表示が統一されておらずサインが不足している。また識別し難いサインが多い。
- デジタルサイネージが不足しており、利用状況や混雑状況がリアルタイムで発信できていない。
- 主要な通路にも関わらず、車いす利用者に不便な開き戸となっている箇所がある。
- 点字ブロック・階段手摺の設置がない等、バリアフリー化ができていない箇所がある。
- 幼児室が設置されているが、専用の授乳室がない。また、おむつ交換スペースが少ない。
- 多くの部屋で蛍光灯や水銀灯が使用されており、LED化（省エネルギー化）が必要な箇所がある。
- 自動水栓等が付いている節水型衛生設備の設置が不十分である。
- 倉庫・文書庫が不足し、廊下等に備品が置かれている。
- 防火シャッターの危害防止装置が一部整備されていない。
- 高窓用の開閉装置が劣化し、窓が開閉し難い。

前述の課題やその他の現状写真を下記に示す。

○竣工当時から使用しており耐用年数が過ぎている空調設備機器やダクト（地下1階）



○劣化している機械設備機器や配管、ダクト（地下1階）



○ダクトや配管が密集しており、改修に時間を要すると想定される機械室（地下1階）



○武蔵野市立第四中学校の機械設備が更新設備機器の手前に設置されており、改修に時間を要すると想定される機械室（地下1階）



○薄暗く感じる玄関ホールと奥まった受付（1階）



○サインがなくエレベーターの位置がわかりにくい玄関ホール（1階）



○蛍光灯を使用している卓球場とトレーニング室の更衣室（1階）



○劣化している更衣室の洗面化粧台（1階）



○劣化しているメインアリーナの競技用フローリング（割れの発生）（1階）



○金物の剥離が見られる競技用フローリングの床下地（1階）



○劣化により色落ちし識別し難いサイン（2階）



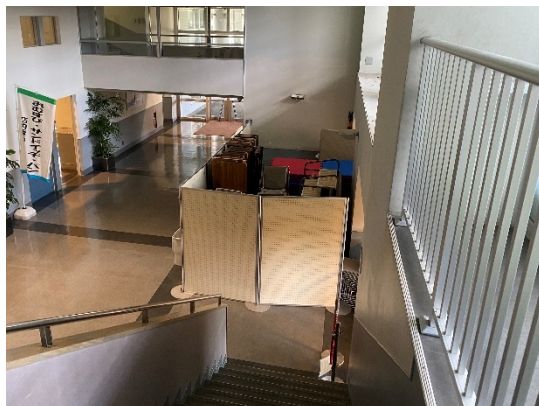
○劣化しているメインアリーナ席（2階）



○車椅子利用者に不便な開き扉（２階）



○廊下に仮置きされている備品（２階）



○劣化している廊下や弓道場の競技用フローリング（４階）



○劣化し使用できないパネルがある移動間仕切り壁（１階）



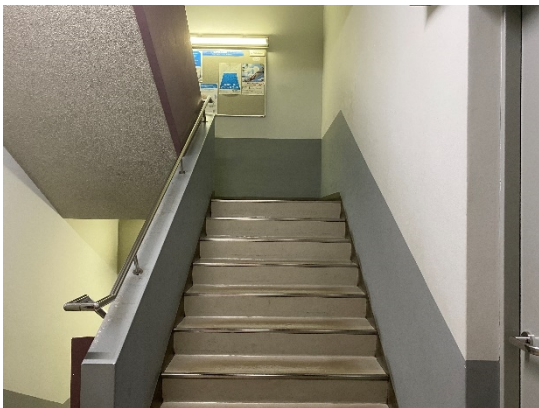
○劣化が見られる幼児室のシート（１階）



○ストレッチャーが利用できない大きさのエレベーター（エレベーター部分）



○手摺が片側のみの階段（各階）



○窓の開閉装置が劣化し開閉し難い高窓（各階一部）



○漏水等による天井のシミ（各階一部）



○和式仕様のトイレ（各階一部）



Ⅱ-6 主な保全整備履歴

	工事名	整備内容
平成 23（2011）年度	武蔵野総合体育館東京国体競技施設整備に伴う空調設備設置工事	メインアリーナの空調設備を置換空調に改修
平成 28（2016）～29（2017）年度	武蔵野総合体育館アリーナ特定天井等改修工事	メインアリーナ、サブアリーナの天井の耐震化。LED 照明への交換
平成 28（2016）～29（2017）年度	武蔵野総合体育館メインアリーナ屋上防水改修工事	メインアリーナ屋根の防水改修
令和元（2019）年度	武蔵野総合体育館ボイラー系統還水槽更新工事	地下 1 階機械室に設置している還水槽 4 台更新
令和元（2019）年度	武蔵野総合体育館 3 階系統空調機更新工事	3 階系統空調室内機 12 台、室外機 9 台更新
令和元（2019）年度	武蔵野総合体育館吸収式冷凍機更新工事	地下 1 階機械室に設置している吸収式冷凍機更新
令和 3（2021）～4（2022）年度	武蔵野総合体育館外壁等改修工事	外壁、屋上防水、外部鉄部などの改修

劣化状況に応じて改修工事を適宜行っているが、部分的な実施のため、一部の配管や機器は更新されていないなど、新旧機器が混在している状況である。

長期休館を行い全面的な保全整備改修を行うことが望まれる。

Ⅲ. 大規模改修の基本的な考え方

Ⅲ-1 計画対象範囲

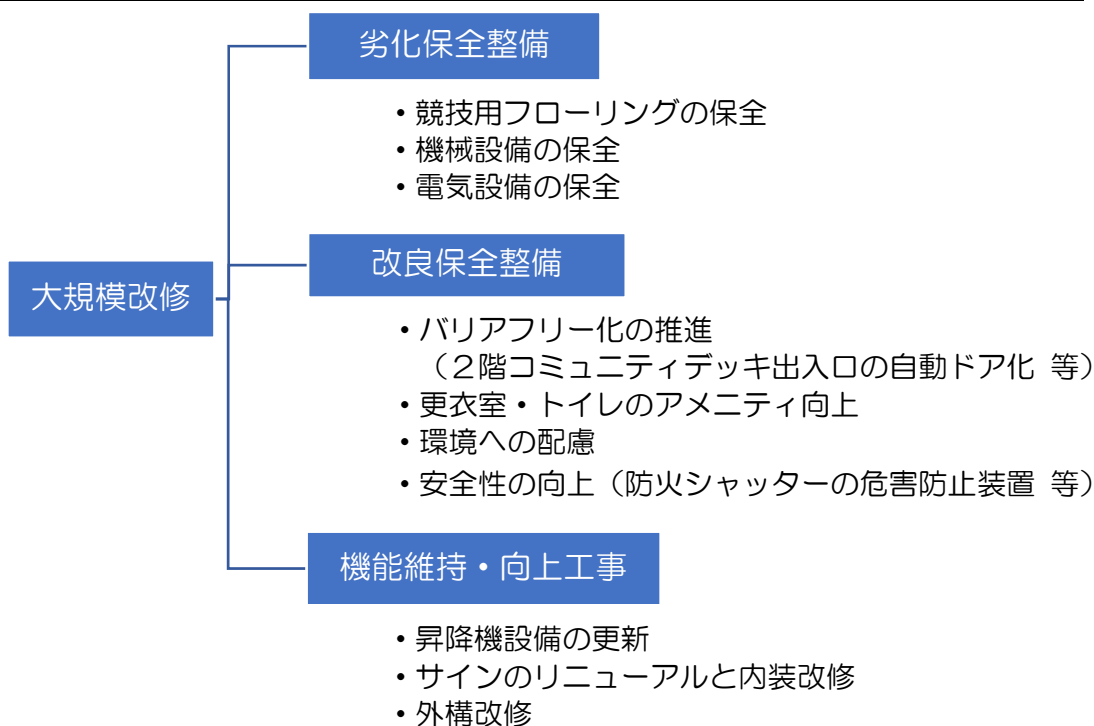
今回の改修工事の対象範囲は、武蔵野総合体育館とする。



計画対象範囲図

Ⅲ-2 基本方針

1	<p>『 劣化保全整備 』</p> <p>耐用年数を超過した機器が多く、空調機が故障している部屋もある。今回の改修で、建築当初の性能・機能を維持できるよう基本的な性能まで戻す整備を行う。また、競技用フローリングの改修や重要設備機器の更新など、一定期間の休館を要する工事は最優先で行い、リニューアル後は継続的な市民サービスを提供できる計画とする。</p>
2	<p>『 改良保全整備 』</p> <p>開館当時には無かった社会的要求の変化等に対応するための施設の機能向上を行うことが求められている。誰もが利用しやすい施設とするためのバリアフリー化は必須の課題となっており、また、武蔵野市環境配慮指針にあるように建設時の環境配慮も重要であり、これらの課題に積極的に取り組む改修計画とする。</p>
3	<p>『 機能維持・向上工事 』</p> <p>大規模改修であることから、リニューアル後にはより使いやすい施設にしていく視点も重要である。明るくわかりやすい玄関ホールや新たなサインの設置、中央通り沿いの外構整備など関連する工事のパッケージ化をすることで効率化を図る。</p>



IV. 改修内容について

IV-1 『劣化保全整備』の改修内容

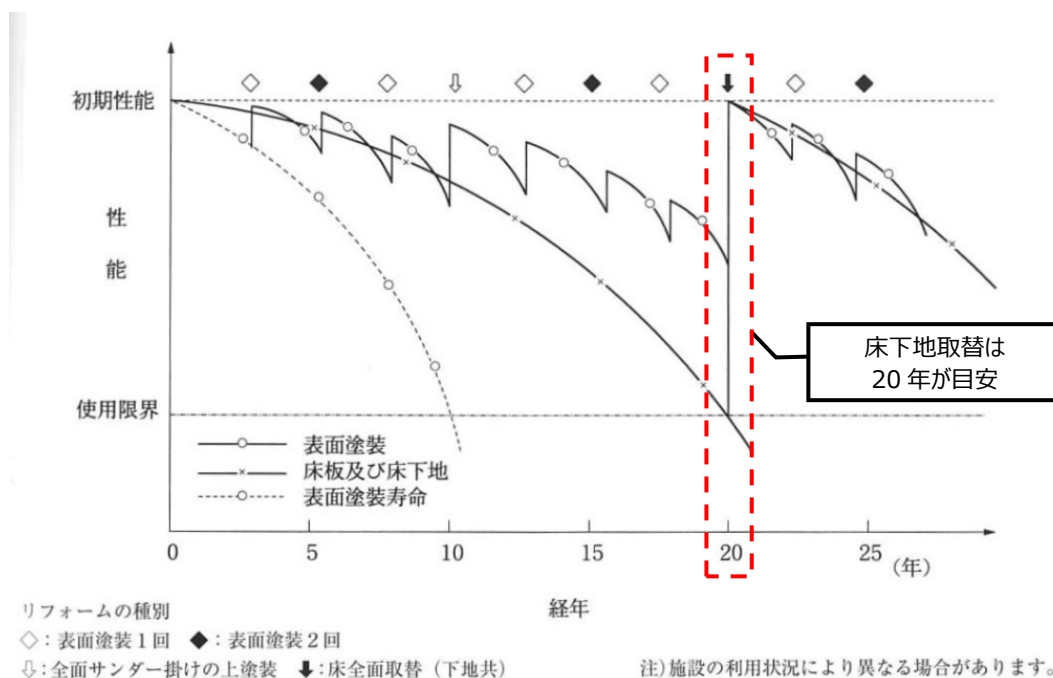
①競技用フローリングの保全

メインアリーナ、サブアリーナをはじめ、ダンス室、卓球場、柔剣道場の競技用フローリングには、へこみ、キズ、割れが非常に多く見られる。バレーボールやフットサル等で床にすべり込んだ際のささくれ事故を未然に防ぐためにも更新が必要である。

両アリーナとも床サンディング(床研磨＋塗装)は実施したが、床の割れは依然発生しており、更新時期を迎えている。床材は競技者が直接触れるため、競技に大きく影響するものであることから、一部劣化が見られる床下地材も含めた更新を行う。



改修後の競技用フローリングイメージ



床の耐用年数と更新時期の関係図

出典：INDOOR SPORTS FLOOR p.49

著者：公益財団法人 日本体育施設協会 屋内施設フロアー部会

②機械設備の保全

各種設備機器の多くは開館当時より使用されており、故障等の懸念があることから、耐用年数を超えた機器は更新が必要である。

特に更新に長期休館を伴う機器類は、今回の改修において必ず更新する必要がある。

○空調換気設備

- ・熱源機器の更新は長期休館を要するため、全面更新する。
- ・空調設備は、耐用年数を超えた機器や更新に長期休館を伴う機器の更新を行う。
- ・空調配管は更新時期を迎えており、水漏れによるリスクを考慮し、全面的な更新とする。
- ・ダクト類は、劣化は軽微であることから原則清掃のみとし、継続利用する。
- ・機器更新に伴い、自動制御設備の更新を行う。

○給排水衛生設備

- ・給水・給湯・排水・通気配管は、耐用年数を超えており劣化が懸念されることから、全面的に更新を行う。
- ・ポンプ類は、竣工当時より使用している機器の更新を行う。
- ・洗面器や便器などは、配管工事に伴い更新が必要となるが、武蔵野市環境配慮指針に基づき節水型便器・水栓を採用する。

○ガス設備

- ・上記空調設備更新に伴い、ガス配管を更新する。



腐食や老朽化が進む空調設備の状況

③電気設備の保全

機械設備同様に、各種設備機器の多くは開館当時より使用されており、故障時に部品調達の困難な機器が多数ある。電気設備は、建物の機能維持に関わる重要設備であることから、全面的に更新し、システムの信頼性を確保する必要がある。

○受変電設備 非常用発電設備

電気設備の要である受変電設備や非常用発電設備などは、建物の機能維持に関わる重要設備であることから、全面的に更新を行う。

○防災設備

非常照明、誘導灯、非常放送及び自動火災報知設備などの防災設備は、人命に関わる重要設備であることから、全面的に更新を行う。

○照明設備

まだ多くの部屋で蛍光灯や水銀灯が使われている。玄関ホールも蛍光灯による間接照明があり暗い印象がある。武蔵野市環境配慮指針に基づき、全面的に LED 照明機器への更新を行うとともに、照度を見直し明るい室内空間に改修する。

○競技施設特有の表示設備

サブアリーナの得点表示や柔剣道場の競技表示、弓道場の的中表示盤などは竣工当時のものが多く、使用されていない設備もある。これら表示設備については、使用状況を確認し必要に応じ最新の機器への更新を行う。



サブアリーナの得点表示板



老朽化が進む電気設備の状況

Ⅳ-2 『改良保全整備』の改修内容

①バリアフリー化の推進

開館当時から誘導床材や車椅子対応トイレを設けるなど、障害者にも配慮した建物ではあったが、この間の障害者スポーツの普及などを考慮した改修を設計段階で検討していく。

東京都福祉のまちづくり条例への適合化に加え、誰もが利用しやすい施設とするため、ユニバーサルデザインを取り入れ、さらなるバリアフリー化を推進する。

○2階コミュニティデッキ出入口の自動ドア化

エレベーターは南側にありメインアリーナ側の上下階移動の際、車椅子利用者は2階コミュニティデッキを通して移動することから、2階コミュニティデッキ出入口は自動ドアに改修し利便性を高める。

○ユニバーサルデザインの取り組み

年齢や性別、一人ひとりの個性に関わらず誰もが利用しやすいよう、障害者スポーツを推進していくうえで、バリアフリー化に留まらず多様なユニバーサルデザインの取り入れを検討する。下記に例を示す。

- ・ 親子観覧席や車椅子観覧席の増設
- ・ 床面と壁のコントラスト（弱視者対応）
- ・ 利用頻度の高い扉を引き戸に改修



床の塗装による誘導サイン、色のコントラストを用いたサイン（階段の出入口）の事例

②更衣室・トイレのアメニティ向上

更衣室やトイレは各競技室に付随するように設置されているが、一方で各更衣室の広さが十分に確保できていない状況である。一人当たりに必要な空間を広く確保することが求められ、ニーズに合わせた間仕切り壁の位置変更が必要である。また、単なる更衣の場ではなくリフレッシュできる場として、明るく健康的なアメニティ空間への改修が求められている。

○1階の更衣室・トイレの集約化

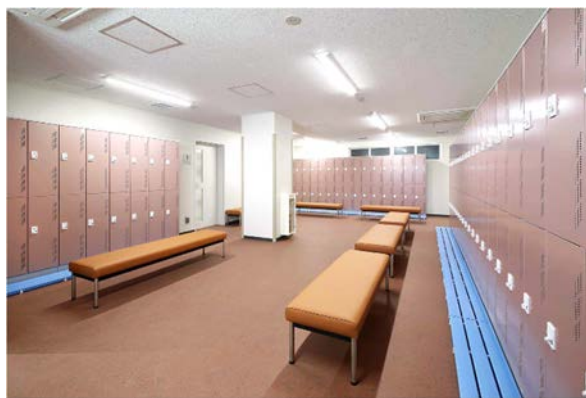
1階は南北2か所の更衣室及びトイレを1か所に集約配置し、使いやすい間仕切り壁の位置変更をし、利用者1人当たりの空間を広げる。また、新たに優先更衣室や多目的トイレを拡充する。

○明るく快適な更衣室・トイレへの改修

1階から4階までの更衣室及びトイレの内装改修を行い、アメニティ向上を図る。また、子ども専用トイレや授乳室を設置する。



明るいトイレの参考事例



明るい更衣室の参考事例（神奈川県立体育センター）

③環境への配慮

地球を取り巻く環境は開館当時から大きく変化しており、武蔵野市公共施設の環境配慮指針を踏まえ、環境配慮技術を積極的に採用し、環境負荷低減に寄与する改修が求められている。

○再生可能エネルギーの利用

クリーンセンターからのバイオマスエネルギー供給（蒸気、電気）を活用した設備方針を継続する。

○空調設備の省エネルギー化

耐用年数を過ぎている空調機器は高効率機器を採用する。また更新に伴い、自動制御設備においても新しい省エネ制御技術であるCO₂制御、インバーター制御※¹を導入することにより、現状より環境性能の向上を図る。

○照明設備の省エネルギー化

照明器具更新では、LED照明を採用するとともに、トイレ等は人感センサーを採用し、省エネルギー化を図る。

※1：ポンプ、ファンなど、モーターの回転数を需要に応じて変動させることにより消費電力の削減を図る制御



クリーンセンター



エネルギー供給の模式図

④安全性の向上

開館当時から現在に至るまでにより高い安全性能が建物に求められるようになったことも踏まえ、市民が安心して利用できるよう建築や設備の安全性能を向上させる。

○防火シャッターの危害防止装置の設置

防火シャッターの危害防止装置は、防火シャッターにより挟まれる事故を防ぐため法令により平成 17（2005）年から設置が義務付けられている。当施設でも適宜設置しているが、未設置の箇所もあるため、今回の大規模改修で危害防止装置を設置する。

○自動ドアの挟み込み防止柵の設置

自動ドアが開く際に戸袋付近にいたり、動くドアの衝撃や袖壁側に挟まれ、身体が引き込まれる事故につながるおそれがある。子どもも利用する施設であることから、今回の大規模改修では自動ドアに防護柵を設置する。



自動ドア用防護柵事例

○階段手摺・注意喚起床材の設置

利用者には高齢者も多く、階段でのつまづき防止策が求められる。現状の階段は片方しか手摺がなく、段差の注意喚起表示も設置されていない。高齢者がストレスなく利用できるよう、手摺増設や誘導床材の設置を行い、安全性を向上させる。



高齢者に優しい階段の事例

Ⅳ-3 『機能維持・向上工事』の改修内容

①昇降機設備の更新

既存のエレベーターは、月次メンテナンス等で安全性を確保しながら維持管理している状況である。

また、現在の寸法（間口 1.6m×奥行 1.5m）では、救急隊のストレッチャーが入らないため、4階柔剣道場からの緊急搬送が困難であり、利用者の安全の確保に課題がある。

○現行法規への適合

大地震時の昇降機の被害事例や事故を受けて、昇降機の安全性を強化した法改正がなされている。今回の休館期間にエレベーターを全面更新し安全性を高める。

○ストレッチャー対応のエレベーターへの改修

昇降路は変更せず、ストレッチャーが入ることのできる寸法（間口 1.05m、奥行き 2.0m）に交換する。



ストレッチャーに対応した
エレベーターの参考事例

②サインのリニューアルと内装改修

玄関ホールは、長年の間に様々な表示サインが追加され、また、開館当時にはなかった予約システム端末や券売機、駐車場料金精算機があとから設置されたことで、はじめて訪れた利用者にとってはわかりにくい空間となっている。

また、中央通り側の出入口から受付カウンターの視認性が悪く、サインの再配置や統一したインテリア計画、受付を正面玄関側に出す配置等を行うことにより、利用者にとってわかりやすい玄関ホールへと改修する必要がある。

○誘導サインや大きなピクトサイン

柱の陰などわかりにくい箇所には誘導サインを設置する。また、トイレやエレベーターなどは、一目でわかる大きさのピクトサインにするなど、誰もがわかりやすい空間に改修する。



大きなピクトサインの例

○明るくわかりやすい受付

現在の受付の位置が出入口から奥まっているので、受付の位置を正面玄関側に拡張し、館内に入った時にわかりやすいよう計画する。また、蛍光灯をLED照明に更新し、明るい受付に改修する。

○野外活動センター事務所の移設

現在3階にある野外活動センターを市民がアクセスしやすい2階へ移設する。コミュニティラウンジと隣接させることで、市民が気軽に訪れることのできる施設に更新する。



1階受付のイメージ図



野外活動センター事務所とコミュニティラウンジのイメージ図

③外構改修

中央通り側の樹木は、定期的な手入れをしているものの、植樹から時間が経ち大きく成長している。中央通りからは武蔵野総合体育館が見えづらい状態となっているため、視認性の高い武蔵野総合体育館の顔づくりが必要である。

○開かれた体育館としての外構

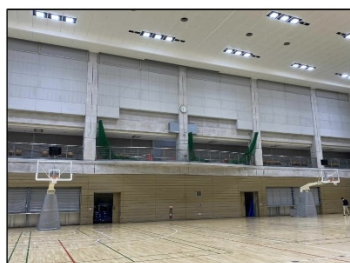
樹木が密集している箇所は間伐を行い、2階コミュニティデッキへ繋がる階段周辺は舗装を広げ、武蔵野総合体育館を訪れる市民が建物を認識でき、来館しやすい明るい外構計画とする。



総合体育館正面イメージ図

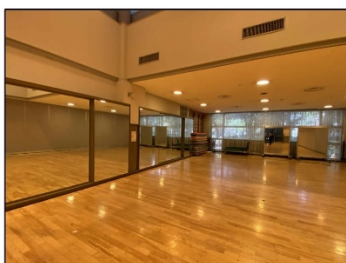
IV-4 各諸室の改修内容

基本方針を踏まえた各諸室の改修内容を下記に示す。



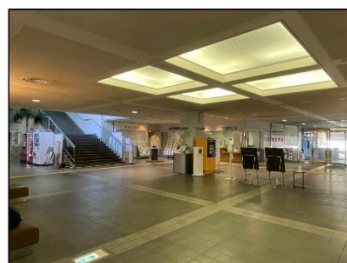
メインアリーナ

- ・フローリングの更新を行う。
- ・付随する倉庫は、体育機器、備品の出し入れのしやすい扉となるよう更新する。



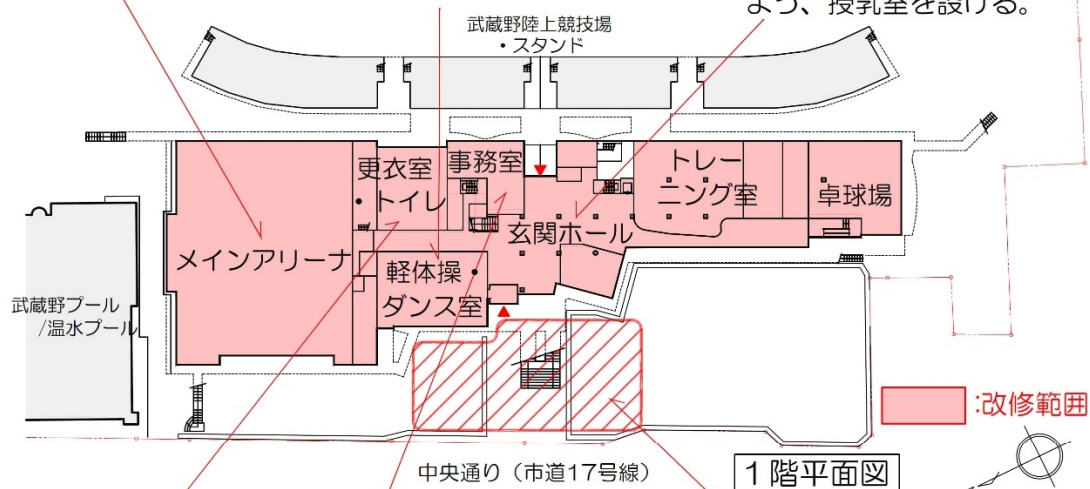
軽体操・ダンス室、トレーニング室、卓球場

- ・フローリングの更新を行う。
- ・床材の更新に合わせ、壁面や天井を更新する。
- ・軽体操・ダンス室の移動間仕切り壁を更新する。



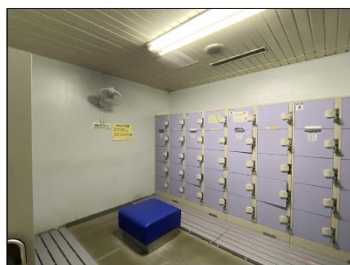
玄関ホール・廊下

- ・玄関ホールは、明るさを感じられるような設えに改修する。
- ・受付はわかりやすく、誰でも使いやすい設えに改修する。
- ・親子連れでも訪れやすいよう、授乳室を設ける。



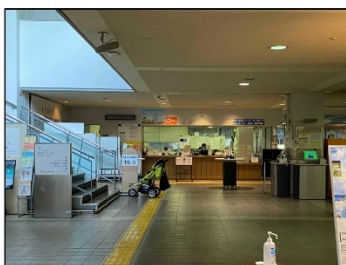
更衣室・トイレ

- ・点在している更衣室・トイレを集約し広く多機能な更衣室・トイレへ改修する。



事務室

- ・業務上必要な面積を確保し、収納スペースを確保する。
- ・OAフロアを導入する。



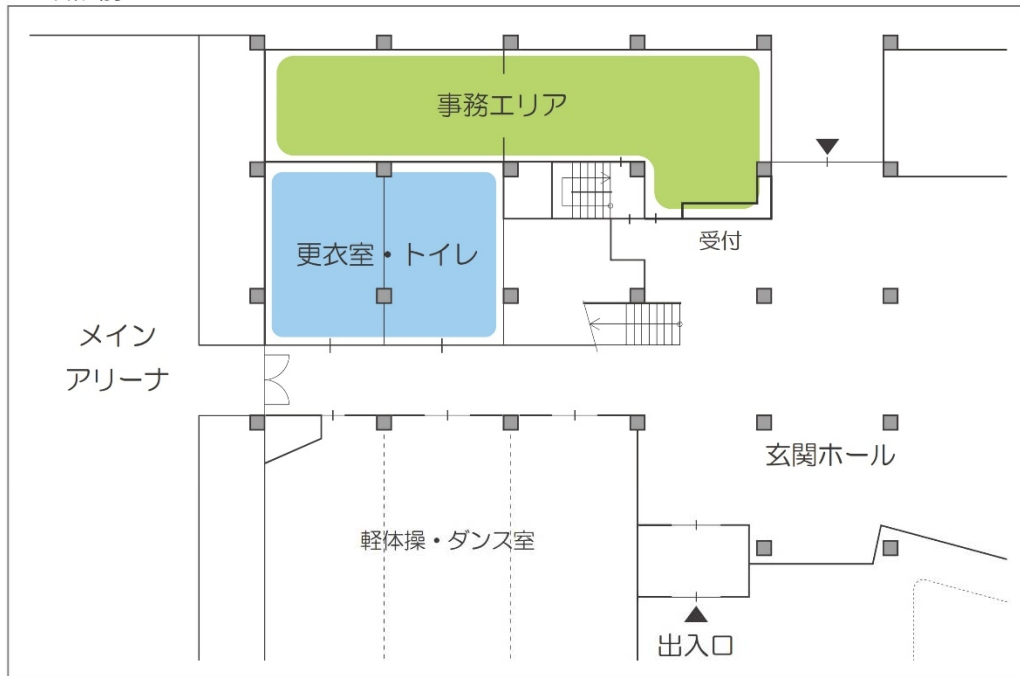
外構

- ・中央通り側の外構を整え、武蔵野総合体育館の顔づくりを行う。

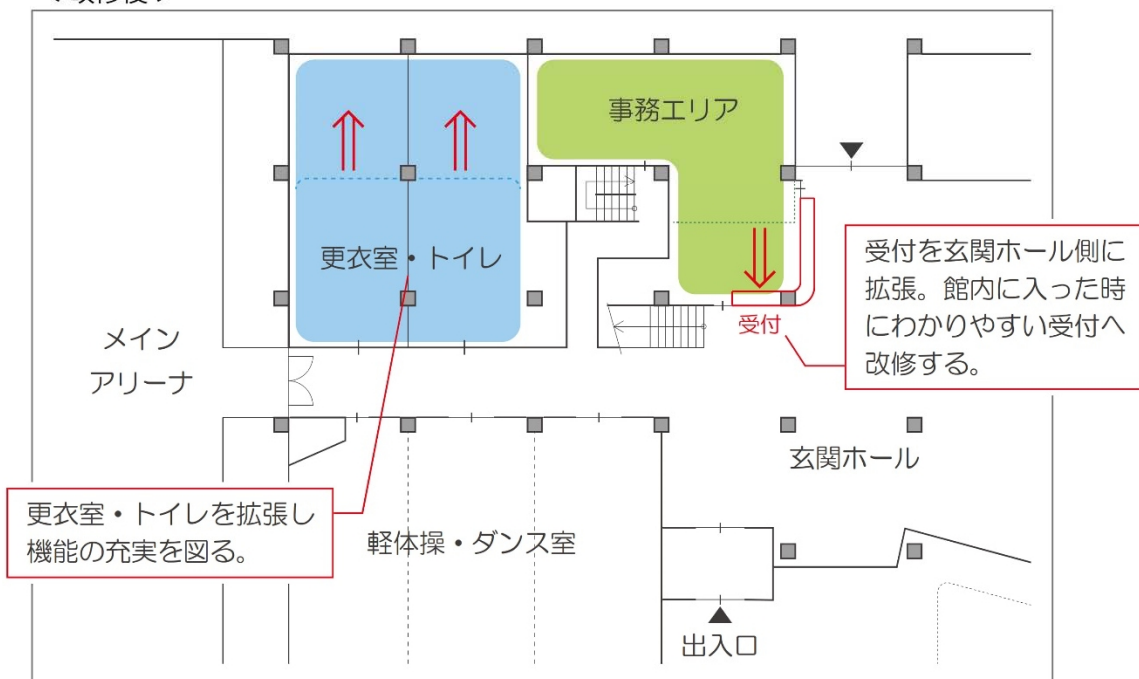


1階 改修概要

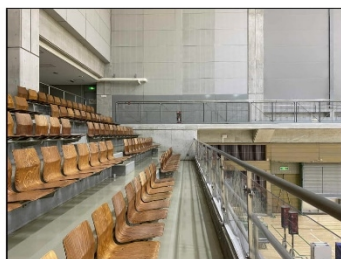
< 改修前 >



< 改修後 >

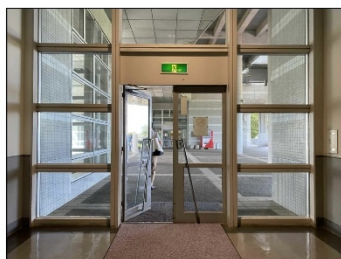


1階 事務エリア、更衣室・トイレ周辺の改修イメージ



メインアリーナ

- 劣化した2階席の取り換え、床材の更新を行い、「見るスポーツ」も楽しめる施設にする。



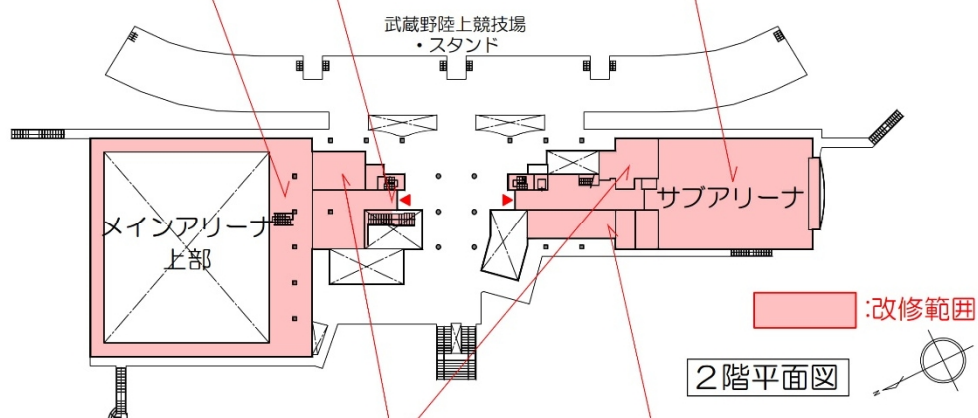
2階コミュニティデッキ出入口

- 誰もが使いやすいよう主要な通路は自動扉化などバリアフリーに配慮した改修を行う。



サブアリーナ

- フローリングの更新を行う。
- 付随する倉庫は、体育機器、備品の出し入れのしやすい扉となるよう更新する。

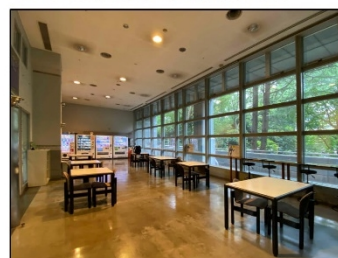


更衣室・トイレ

- 広く使いやすい更衣室・トイレへ改修する。

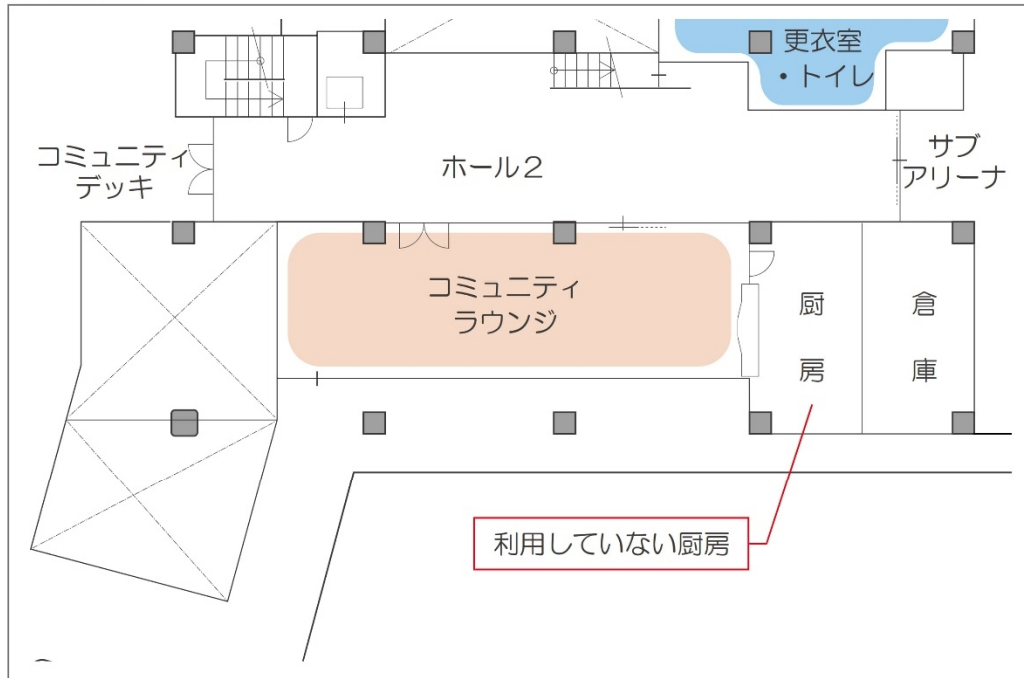
コミュニティラウンジ

- 現在使われていない厨房部分に野外活動センターを移設し、コミュニティラウンジと隣接させることで、市民が気軽に訪れることのできる施設に更新する。

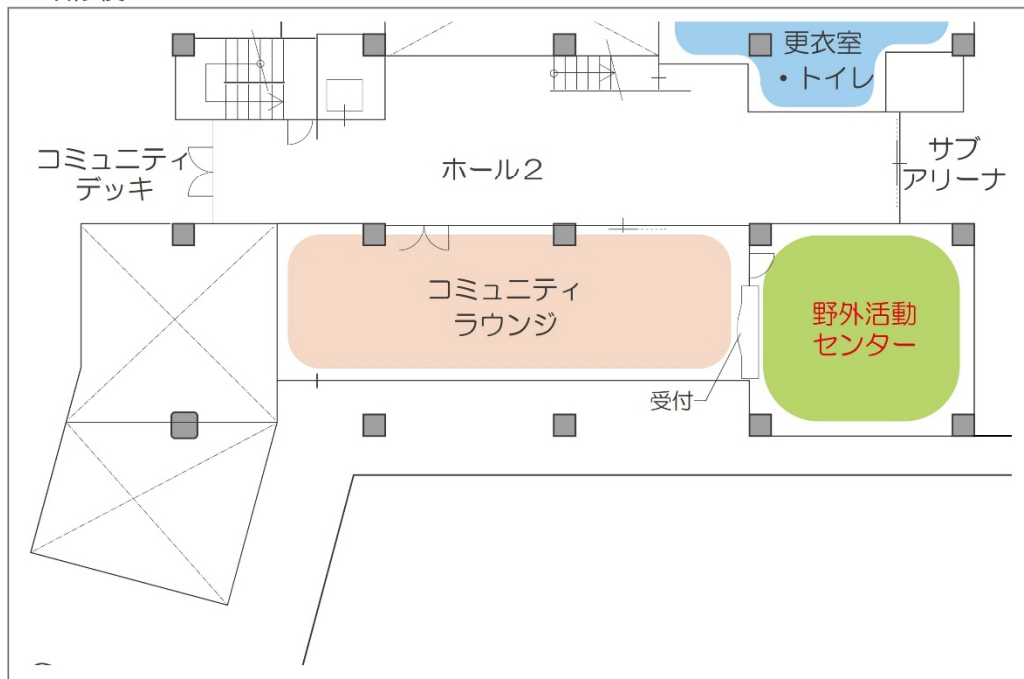


2階 改修概要

< 改修前 >



< 改修後 >



2階コミュニティラウンジ、野外活動センター周辺の改修イメージ



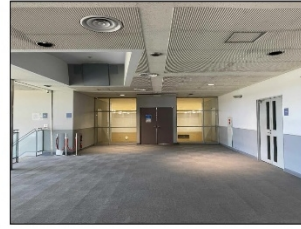
会議室・研修室・書庫等

- ・明るい設えとなるよう内装改修を行う。
- ・野外活動センターが2階へ移設することに伴い、書庫スペースを増設する。



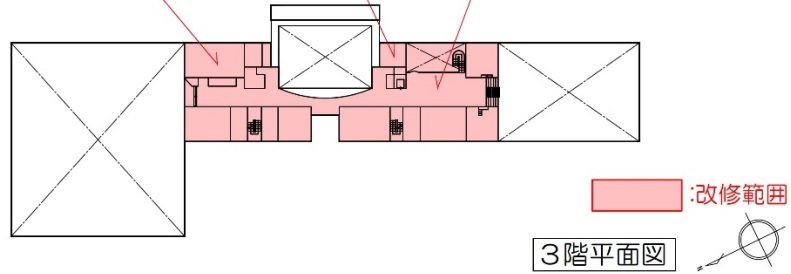
トイレ

- ・3階のトイレは、器具交換、内装改修を行い、アメニティ向上を図る。



廊下

- ・明るい設えとなるよう内装改修を行う。



3階 改修概要



柔剣道場

- ・フローリングの更新を行う。
- ・柔剣道場の移動間仕切り壁を更新する。



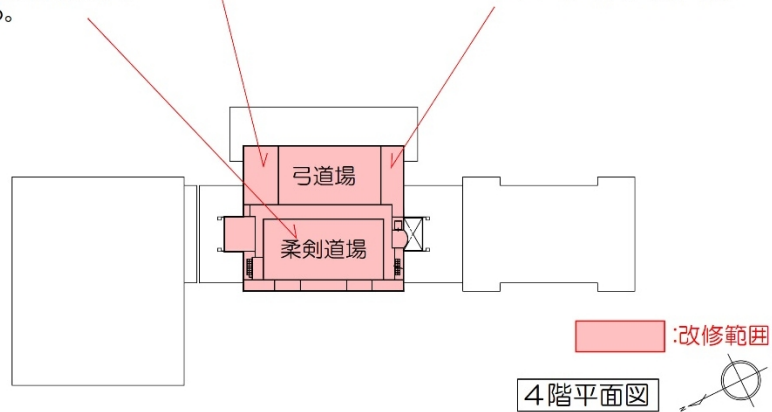
弓道場

- ・フローリングの更新を行う。



更衣室・トイレ

- ・4階の更衣室・トイレは、器具交換、内装改修を行い、アメニティ向上を図る。



4階 改修概要

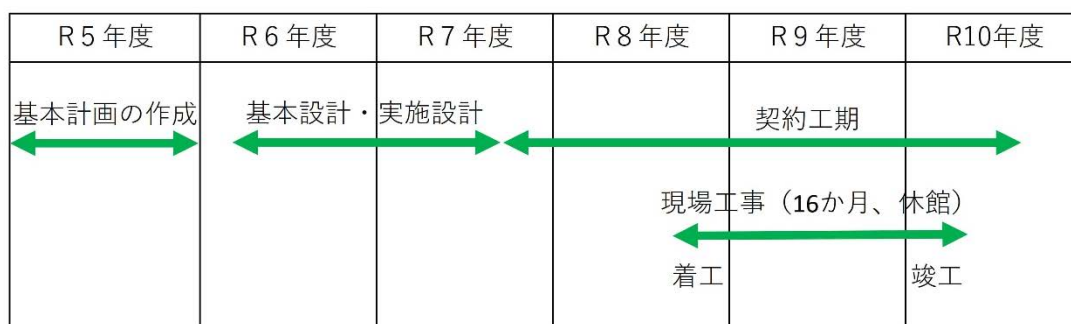
V. 今後のスケジュール

V-1 設計及び工事スケジュール

本計画案作成後、基本計画策定を行い、令和6（2024）年度から令和7（2025）年度まで基本設計及び実施設計を行う。着工は令和8（2026）年度、竣工は令和10（2028）年度を予定している。

V-2 全館休館期間

全館休館期間は、令和8（2026）年度から令和10（2028）年度までの16か月を予定している。



想定スケジュール

V-3 概算工事費

令和5（2023）年時点の概算工事費 約54.4億円（※1）

ただし、業務委託費や備品類及び工事期間中の運営に関する費用は含んでいない。また、物価上昇等で概算費用の変更が生じる可能性もあり、基本設計や実施設計時に改めて精査を行う。

※1：建築工事は㎡単価より算出、設備工事は積み上げにより算出

Ⅵ. 計画上の留意点について

Ⅵ-1 計画上の留意点

本施設の大規模改修にあたっての特殊要因、留意点について整理した。

①改修工事に伴う武蔵野温水プール、市立第四中学校温水プール、陸上競技場への影響

体育館地下の機械室には、武蔵野温水プールや市立第四中学校温水プールのための機械設備、電気設備も設置されており、体育館設備と同様に耐用年数を超えている。また、陸上競技場への温水も供給している。体育館休館に伴い、上記施設への温水供給が一定期間停止することが想定されるため、各施設関係者と調整が必要である。



蒸気配管ルート図

②事務受付機能の継続

総合体育館の運営を受託する公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団は、工事期間中も稼働可能な施設（市営プール、陸上競技場、軟式野球場、庭球場、緑町スポーツ広場、ストリートスポーツ広場、中央公園スポーツ広場）の受付業務やスポーツ教室の開催、本部運営業務などこれまでと同様の業務を行う。また、改修工事期間中も市民がスポーツを実施する機会を創出するため、スポーツ教室等については市内の小中学校やコミュニティセンターなどを活用した事業運営を行うため、仮設の受付窓口及び職員事務所については体育館敷地内等に設置することが望ましい。

③市道 17 号線無電柱化事業との調整

当敷地の前面道路である市道 17 号線については無電柱化事業を検討中であることから、施工計画においては、本計画の工事車両と無電柱化工事が干渉しないようスケジュール調整が必要である。

武蔵野総合体育館大規模改修保全整備基本計画（案）

令和5年 12 月

発 行 武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課
所在地 〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28
電 話 0422-60-1903 FAX 0422-51-9264
E-mail SEC-SYOUNGAKU@city.musashino.lg.jp
